

平成 26 年度 部長マニフェスト（評価及び検証）

財務部 部長マニフェスト（評価及び検証）

重点課題 ①

自己評価

計画的な財政運営による持続的・自立的な行財政基盤の確立



★何を目指すのか、目指すべき方向は？

（評価日）平成26年12月31日

戦略課題の目標

将来予想が難しい状況の中、社会情勢や経済状況に対応できる持続的・自立的な行財政基盤の確立に向けて、平成27年度以降も引き続き、計画的に財政の健全化に努めます。

セルフレビュー（自己点検）

市税の伸びが期待できない状況の中、既存経費の見直し、公営企業の収支改善が進まず、たいへん厳しい財政状況が続いている。

★その実現に向けて、今年度は何をするのか？

施策推進上の目標

①計画的な財政運営

「柏原市行財政健全化戦略」のもと計画的で規律ある財政運営に努めます。

②経常予算の抜本的見直し検討

平成27年度予算編成に向けて、事務事業の既存経費の抜本的検討を進めます。

- ・ 市単独事業における部内でのスクラップアンドビルド（新規事業の実施には必ず既存事業の廃止・縮小をすること）を徹底
- ・ 実施計画の策定に伴い、査定による事業規模等の抑制、中長期見通しを構築

取組結果・実施状況

平成26年度が「柏原市行財政健全化戦略」の最終年でもあり、企画調整課とともに各事業担当課との個別検討課題についてのヒアリングを行い、既存経費、既存事業の見直しに取り組んだが、平成26年度決算見込み、平成27年度当初予算案ともに大変厳しい状況である。

★その取組により、何をどのような状態にするのか？

アウトプット

- ①平成26年度において収支不足が見込まれる中、必要な事業規模等を再精査
- ②庁舎建設基金借入金（2億5千万円）の早期返済（平成30年度末一括償還）
- ③平成27年度予算への反映
 - ・ 収入の範囲内で歳出予算を組むよう努力、将来負担を先送りしない
 - ・ 新規事業の構築とそれに伴う既存事業の廃止・縮小の進捗

取組結果・実施状況

平成26年度決算見込みは、市税についてはほぼ前年並みと予想しているものの、生活保護費をはじめとした社会保障経費の増加や公営企業会計への繰出し等により、庁舎建設基金への早期返済は極めて困難となり、黒字維持のために財政調整基金の取崩しも余儀なくされる恐れがある。

平成27年度当初予算案では、事業の見直しが一部にとどまる一方、新規に増加する経費もあり、編成は困難を極めた。

★その取組により、何をどのような状態にするのか？

アウトカム

- ・ 予算編成は収入の範囲内で歳出予算を組む
- ・ 財政の健全化を示す指標等の改善及び堅持、特に将来負担比率の改善、実質赤字比率の黒字堅持

取組結果・実施状況

- ・ 予算編成は収入の範囲内で歳出予算を組む
 - ・ 財政の健全化を示す指標等の改善及び堅持、特に将来負担比率の改善、実質赤字比率の黒字堅持
 - ・ 積立金の計画的な積立て
- いずれも現状では困難
- ・ 平成25年度一般会計決算については、財政調整基金を取り崩すことなく黒字を維持した

(評価日) 平成27年1月31日

市長評価

(C) 期待 : 一定の目標は達成できたが、もうひと頑張り。今後に期待する。

市長のコメント

- ・ 保育所や循環バスの民営化などが進捗しているが、財政上の効果が出るのは来年以降先々の年度と理解している。
- ・ 引き続き、一層の健全化に向けた財政運営に努めてもらいたい。

(作成日) 平成27年2月27日

行政評価委員会のコメント

- ・ 既存経費、既存事業の見直し（スクラップアンドビルド）について、具体的な取組結果や実施状況を明らかにされたい。
- ・ 取組結果・実施状況を定量的にまとめて記述すれば取組がよく理解できる。

(作成日) 平成27年2月27日

今後の取組の方向性など

市税や地方交付税の決算見込みは予算を上回ることが予想されるが、生活保護費や障害者自立支援費などがこれまで以上の伸びをみせており、国民健康保険会計や病院事業会計への繰出しも増加していることなどから、財政調整基金の取崩しも余儀なくされるなど一段と苦しい状況になると考える。

今後人口減に伴い市税や地方交付税も増加が見込めないどころか減少が予想され、社会福祉経費は高齢化に伴いますます上昇カーブを描くと考えられる。

少なくともここ数年間はスクラップアンドビルドや選択と集中といった生易しいものではなく、新規事業はすべて凍結、既存経費すべてをゼロから見直すという、財政にとって耐え忍ぶ期間に入らざるを得ないと考える。

重点課題 ②

自己評価

市税のより適正で公平な賦課徴収と収納率の向上

概ね達成

★何をを目指すのか、目指すべき方向は？

(評価日) 平成26年12月31日

戦略課題の目標

納税者の税への理解を深めて、適正で公平・公正な賦課徴収に努め歳入の根幹である市税の確保に努めます。

セルフレビュー(自己点検)

適正な課税のため、実地調査や各種資料などにより課税客体の把握に努め、適正な滞納整理による徴収に努めました。

★その実現に向けて、今年度は何をするのか？

施策推進上の目標

適正な課税のために現地調査の実施や国・大阪府との連携を図り課税客体の的確な把握に努めます。

公平・公正の観点から徴収業務の強化に取組み、収納率(＝市税収入済額／課税決定した市税の総額<調定額>)の向上に努めます。

取組結果・実施状況

市民税や固定資産税の償却資産において未申告者に申告を促し、空中写真や市内巡回により固定資産税の課税客体の把握により適正な課税に努めました。

適正課税をもとに、納税者の税負担の公平性を保ち収納率の向上を図りました。

★その取組により、何をどのような状態にするのか？

アウトプット

納税者に対し公平・公正な課税を実施し、現年課税分の年度内収納を促進するとともに滞納額を圧縮します。

取組結果・実施状況

適正な課税のもと、納付コールセンターによる電話勧奨や繰り返し文書催告を行いました。特別納税月間を設けて休日訪問及び休日納税相談を実施して現年課税分の年度内収納を促進しています。

また、自主納付の意志がない滞納者には、厳正な滞納処分を行っています。

◎出納閉鎖に向けて取組中です。

★その取組により、何をどのような状態にするのか？

アウトカム

市税に対する信頼と市民の税負担の公平性を確保して、25年度収納率（25年度出納閉鎖後に確定）を上回る収納率を達成します。

取組結果・実施状況

平成25年度収納率94.4%を上回ることを目標に取り組んでいます。

26年12月末時点において70.8%、最終収納率は出納閉鎖時に確定します。

参考：平成25年度収納率

12月末収納率69.7%→最終94.4%

(評価日) 平成27年1月31日

市長評価

(B) 奨励 : 頑張って目標を達成し、満足できる結果である。さらなる向上を目指してもらいたい。

市長のコメント

- ・ 個人市民税の課税減に歯止めがかかったが、他で大きな市税収入アップにつながる要素までは現時点では見えていない。
- ・ 徴収強化の対策として大阪府の徴収機構へ職員を派遣することにより、税の増収と職員の徴収事務のレベル向上に期待する。

(作成日) 平成27年2月27日

行政評価委員会のコメント

- ・ 市民意識調査の結果では、満足度と重要度の乖離値が大きくなっている。更なる収納率の向上と滞納整理の強化に向けて取り組み、収入の確保をされたい。

（作成日）平成27年2月27日

今後の取組の方向性など

歳入の根幹である市税であるが、税源移譲のあった平成19年から減少が続いている。

平成26年度は収入額、徴収率とも前年度を上回る見込みであるが、今後大幅な増は見込めない。

現在行っているコールセンター、平成27年度から職員を派遣する徴収機構などを活用し、さらに徴収率を引き上げていきたい。

重点課題 ③

自己評価

適正な入札及び契約の執行

一部達成

★何を指すのか、目指すべき方向は？

(評価日) 平成26年12月31日

戦略課題の目標

単に廉価を目指すだけでなく、民間企業の優れた技術力を活かすことにより、品質面の向上を図ります。

セルフレビュー(自己点検)

- ・民間企業の優れた技術力を活かすため、価格のみで業者を決定するのではなく、技術力を加味した入札方法である総合評価方式を実施した。(高額な工事金額のみ)
- ・工事成績評価の見直しを行っており、今後活用していく
- ・業務成績評価を試行的に実施(土木設計のみ)し、範囲を広げ業者選定等に活かしていく。

★その実現に向けて、今年度は何をするのか？

施策推進上の目標

工事及び業務の品質向上

取組結果・実施状況

- ・総合評価制度については設計金額1億8000万円以上の工事（建築工事6億以上）は導入済みで今年度は1件実施した。
- ・業務成績評価については、4件試行的に実施した。
- ・工事成績評価についてはより精度の高いものにするため見直しをしている。

★その取組により、何をどのような状態にするのか？

アウトプット

工事だけでなく、業務にも成績評価を導入します。
工事成績評価を見直し、ホームページ等で公表を検討します。
総合評価方式など価格だけでなく、品質面を考慮した業者選定を図ります。

取組結果・実施状況

- ・業務成績評価については4件試行実施した。今後対象業務を拡げたい。
- ・工事成績評価については、従来から実施しているが、活用方法等も含め見直しを行い制度改善委員会（契約制度を検討する委員会で11名で構成）に諮っていく。
- ・総合評価方式は1件実施した。

★その取組により、何をどのような状態にするのか？

アウトカム

成績評価点の年平均を引き上げます。

取組結果・実施状況

・工事成績評価については、活用方法等も含め見直しを行い、
制度改善委員会に諮って来年度からの適用を目指す。

平成26年度12月末現在の結果

A 0件 B 4件 C 8件 D 2件 E 0件

平成25年度

A 0件 B 10件 C 38件 D 14件 E 0件

凡例

A 特によい B よい C ふつう D やや悪い
E 悪い

(評価日) 平成27年1月31日

市長評価

(B) 奨励 : 頑張っていて目標を達成し、満足できる結果である。さらなる向上を目指してもらいたい。

市長のコメント

- ・公正公平な入札制度の運用はもとより、市内業者育成も視野に入れた入札制度の取組に努めること。

(作成日) 平成27年2月27日

行政評価委員会のコメント

- ・入札制度に対する取組が工事費削減や品質向上に貢献しているのかどうか、市民に対し分かりやすく報告されたい。
- ・昨年度からの取組課題であり、取組結果や実施状況から事業が進捗している事、また成果も上がっている事がよく理解できるが、なお一層の改善に取り組まれない。

（作成日）平成27年2月27日

今後の取組の方向性など

平成26年度の工事評価については、全体的に上昇している。

具体的にはD評価がなく、B評価が増えるなど、当初の目標を達成しつつある。

来年度以降は、成績上位の業者に受注件数面で優遇するなどの措置を執り、工事の品質をより一層高めていきたい。

業務委託についても、成績評価の試行を拡大していきたい。